

万博公園探鳥会

2024年10月12日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
玉置こるり・平軍二(090-6901-1425)

I 千里の鳥・万博の鳥「トウネン」

漢字名「当年」 学名「*Calidris ruficollis*」



トウネン(当年) 橋本昌宗

9月の探鳥会で、万博公園「夢の池」に浮いている藻(アオミドロと思われる)の上に、トウネン(当年)が採餌していたので紹介したい。

万博公園ではタシギ以外のシギを観察することはほとんどなく、今回のトウネンは秋の渡りの途中にたまたま立ち寄ったため観察できたと思われる。

1985年2月に始めた万博定例探鳥会や調査、個人的な観察会を含め40年間、これまで全く観察されておらず万博公園初記録の鳥となった。

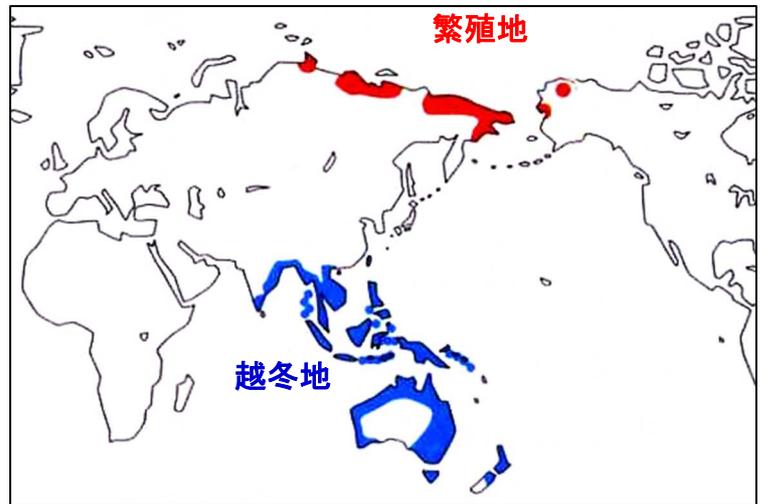
当年とは今年のこと、体長15cmとシギの仲間で最も小さいことから、今年生まれの鳥のように見えるとして、トウネンという名がついた。(国松俊英「名前といわれ 野山の鳥」借成社(1995))

① トウネンの繁殖地・越冬地 →

ベーリング海峡～ロシア東部など北極海側、越冬地がフィリピン・インドシナ半島～オーストラリアの南半球で、小さい体ながら毎年10,000Km 前後の長距離を往復していることになる。

トウネンがこれほどの長旅をして、繁殖地・越冬地間を往復する理由は、繁殖地の北極圏が夏に太陽が一晩中沈まない日が続く、沈んだ日も薄明るい夜(白夜)になるためである。繁殖地の昼が長く、花が咲き、多くの昆虫が活動する時間も長いことで、繁殖・子育てのための餌が豊富にあり、繁殖効率が良いことわかる。

しかし冬になると地表が氷結していて、餌が採れなくなるため温暖な南半球に移動している。(真木広造・大西敏一「日本の野鳥 590」平凡社(2000))

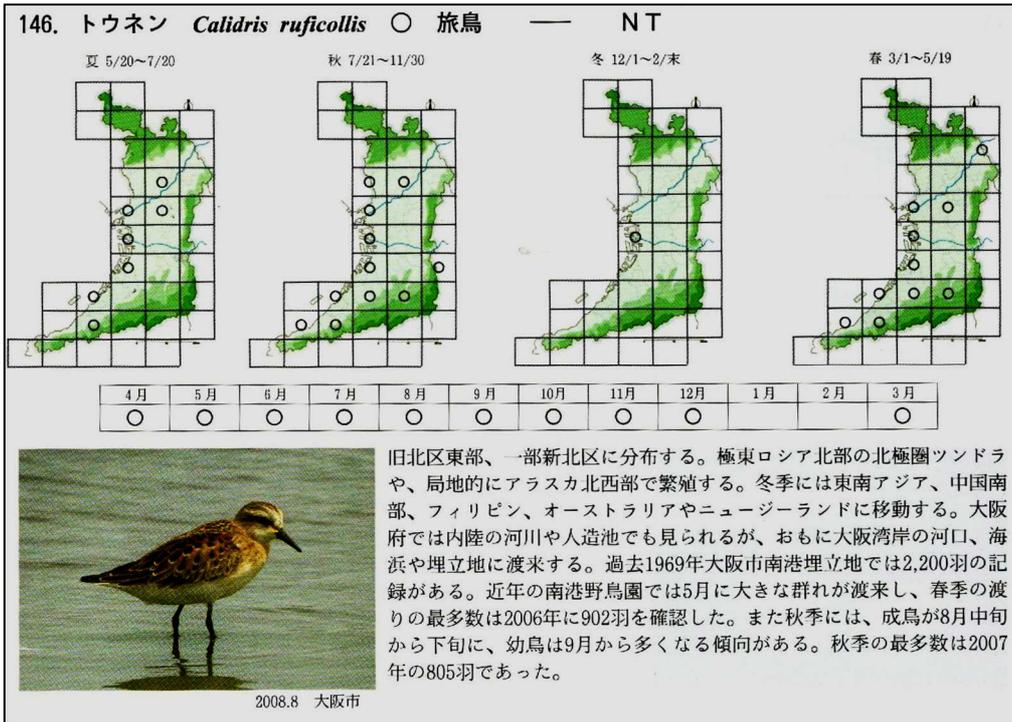


② 大阪府のトウネン 「大阪府鳥類目録 2016(日本野鳥の会大阪支部)」

トウネンは繁殖地が北極圏、越冬地が南半球にあり、大阪府は通過しているのみであるが、大阪湾岸の干潟や、淀川などの河川で毎年春4～5月の北帰行、秋8～10月の南下時に観察できる。今回万博公園で観察されたのは、河川・ため池など内陸部を通過中に、万博公園上空で「夢の池」を見つけ降りて休んでいたと思われる。

万博公園初記録は3羽だったが、大阪府内最高は1969年に**南港埋立地で2200羽**も観察されたと

の記録がある。また、**南港野鳥園では2006年春906羽、2007年秋805羽**の観察記録がある。



II 先月2024年10月万博公園探鳥会結果

万博では珍しいイソヒヨドリ。園内各所でコサメビタキ。キビタキは雌雄。セキレイは3種見られた。**夢の池に浮いた藻の上で3羽のトウネン**が採餌、万博公園では初記録となった。渡り途上で立ち寄ったと思われる。その横にカイツブリ幼鳥が1羽。ムクドリは群れで採餌。



